

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2371300860		
法人名	有限会社 サンクチュアリ		
事業所名	グループホーム樹樹(1F)		
所在地	愛知県名古屋守山区金屋二丁目250番地の1		
自己評価作成日	令和3年11月15日	評価結果市町村受理日	令和4年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2371300860-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2371300860-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和3年12月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「あたたかく尊ぶ」を理念と掲げ常に利用者側の立場で物事を考えられるような介護を望み日々努力しています。常に明るい雰囲気や会話、笑顔の絶えない施設でありたいと思っています。また利用者が生き生きと生活して頂く為に役割分担を決めコロナ禍の中外出も制限中であるため施設内で行事等を積極的に取り組んでいます。施設の庭にはデッキやベンチがあり気候の良い日は音楽会やお花見、お茶会等を行っています。また家族との面会も制限中であるため毎月担当からの手紙で利用者の写真、様子等を詳しくお伝えしています。また毎月の会議で問題点等を話し合い改善できるよう職員一同努力しております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームでは、基本理念でもある「あたたかく尊ぶ」の思いを日常の支援の中で実践しており、毎月の「茶話会」を通じた利用者一人ひとりの思いを引き出す取り組みをはじめ、職員間で利用者一人ひとりに寄り添った支援が行われている。感染症問題が続いていることで、外部の方との交流や利用者の外出が困難になっているが、ホームでは、毎日のレクリエーション活動を充実する取り組みが行われている。家族との関係づくりも行われており、毎月の便りには、利用者一人ひとりに関する細かな現状報告が行われており、現状の利用者と家族の交流が限られている中で、家族に利用者の様子を知ってもらう機会にもつながっている。また、ホームでは、医療面での連携も深めながら利用者の看取り支援も行われており、利用者がホームで安心して最期まで過ごすことができるような生活環境がつけられている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	各フロアにも理念を掲げている。申し送り時、各フロアごとに理念を唱和、ケアの統一性を図りチームとしての達成感がみられるように協力している。介護に対する姿勢をその都度見直す貴重な時間だと考えている。	利用者を尊重することを基本に考えながら、毎日の申し送りの際に職員間で理念を唱和し、理念の共有につなげている。また、日常の支援を通じながら、職員間で理念の実践につながる取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナウイルス感染予防のため地域との交流、ボランティア訪問は制限している。	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が困難になっている状況であるが、ホームは地域の自治会に入り、回覧板等を通じて、地域の方との情報交換が行われている。現状は、ボランティアの方の訪問も中断している状況である。	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が中断している状況が続いていることもあるため、今後の状況もみながら地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナウイルス感染予防のため地域との交流は制限している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナウイルス感染予防のため運営推進会議の開催は中止する。	会議については、書面による実施が続いており、関係者に書面を配布し、意見等の確認が行われている。ホームから現状を報告し、会議の関係者にホームへの理解を深めてもらう働きかけが行われている。	運営推進会議については、書面による実施が長期化していることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、会議の再開につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護の利用者を受け入れているため区の担当者と連絡を取り合っている。	ホーム運営上の不明点等がある場合には、管理者から市担当部署に相談を行い、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、感染症問題等、ホームでの対応が困難な際には、関係機関とも連携を図り、問題解決に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中玄関の鍵は施錠しておらず、チャイムが鳴るよう工夫しており見守りにて対応。現在ベッドからの転落防止のため数人ベッド柵での対応を実施している。毎月話し合いの場を設けている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ユニットの出入り口に施錠を行わず、出入りをする際には職員間で声かけを行う等の取り組みが行われている。なお、やむを得ず身体拘束を実施する際には、決められた手順に従って対応することとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待につながることは行わないよう毎月の会議で話し合い年に二回勉強会をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員の理解は難しい。ミーティングや勉強会で話し合い活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には時間を設け本人、家族の意向を確認し理解が得られるよう努めている。改定の際には書面にて伝え重要なことは同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナウイルス感染予防のため家族会は中止としたため毎月意見や要望を聞く。毎年4月苦情受付表を配布する。玄関にはご意見箱を設置してある。	現状、家族との交流が困難になっているが、例年は、家族会や行事を通じた家族との交流が行われている。家族が利用者と面会することは困難でもあるが、ホームから毎月の細かな状況報告書が作成されており、利用者の暮らしぶりを報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月会議には代表者、管理者が出席、意見交換をおこなう。必要時には個人面談をおこなう。	毎月、ユニット毎に会議を行っており、職員からの意見等を管理者が把握し、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、ホームではユニット毎に主任の職員をつくっており、主任を中心に職員からの意見等の把握も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は出勤職員の状況等把握している。必要時個人面談をおこなう。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修のチラシを提示する。会議、勉強会等で参加を促すがコロナウイルス感染予防のため制限する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナウイルス感染予防のため直接の交流はできなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面接時本人からの話に十分に耳を傾けようと努力している。本人、家族の意向を聞きながらなるべく添うように努め納得した上でサービスの開始を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時にご家族や本人が納得して頂けるよう時間をかけ話をさせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者からの訴えや状態を見極め他のサービス利用が必要な場合にはそれに応じた対応や情報提供などおこなうよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活する中で職員と利用者が共に行うことで信頼関係を気づいている。一緒に行うと言うことに意味があり利用者の気持ちを把握できる貴重な時間と考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナウイルス感染防止のため家族との面会を制限している。電話、担当職員より毎月手紙で近況報告をしている。必要時には電話で相談し合う関係を築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナウイルス感染防止のため面会は制限しているが電話、手紙での交流ができるよう支援している。プライベートな空間を提供している。	現状、外部の方との交流が困難でもあるが、利用者の中には、入居前からの関係の方が利用者に電話をする等、馴染みの方との交流につなげている方もいる。また、家族との外出については、家族からの要望もあり、徐々に緩和に向けた検討が始められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共同生活の中で利用者同士のトラブルもあるがお互い役割分担を決め協力し合って過ごしている。意思疎通が難しい利用者、孤立しがちな利用者には職員が寄り添うなどの配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要があれば連絡をとり退去後の状況について話を伺ったり相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との日々の会話の中から希望、意向を聞き会議等で話し合いなるべく本人の意向にそったケアを行っている。	ホームでは、毎月の「茶話会」の取り組みを継続しており、その時に合わせたテーマで利用者と話し合い、一人ひとりの意向等を引き出す取り組みが行われている。また、毎月のカンファレンスを実施しており、利用者や家族の意向等の検討も行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人、家族から情報収集を行いアセスメントシートを作成しニーズを導き出すように努めている。また毎月行う茶話会を通じて過去の暮らし方、生活環境の経過等把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者を担当する職員を中心に毎月会議で現状を伝え話し合い記録や報告に残すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人家族により良く施設で暮らしていく事についての希望、意向を聴取し毎月の会議で話し合い現状に即した計画を立てるように努めている。	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、1か月の利用者の様子を1枚の用紙にまとめながら利用者の変化等を把握し、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録、申し送り、医療ノート、を利用し普段から情報の共有に努めている。毎月記録することで利用者の変化や気づきが分かりやすくなっている。ケアプラン作成に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族の状況に合わせて柔軟で自由なケアの提供ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルス感染防止のためボランティアの受け入れを制限施設内での参加となる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回の往診ではあるが普段から密な連携が取れており迅速で適切な対応ができています。施設とかかりつけ医が違う場合希望にそうようにしている。	協力医による毎月の訪問診療等の支援が行われているが、利用者の中には今までのかかりつけ医を継続している方もいる。管理者が看護師でもあり、協力医との連携が行われているが、定期的な訪問看護も行われており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の異常に気づいたときは管理者、訪問看護に連絡相談するよう職員に周知させており実行している。コロナ感染防止のため制限はしているが申し送り表を使い週間の利用者の状況は把握できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナウイルス感染防止のため電話での病院関係者との情報交換指導を頂いている。家族との情報収集を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人の意思が確認できた場合石を尊重し意思が確認できない場合は家族からの意向を確認し家族、職員と十分に話し合い方針を共有関係者との連携チームで支援に取り組む。	ホームでの看取り支援が行われており、今年度も複数の方がホームで最期を迎える支援が行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを行い、感染症問題が続いている中でも最期は家族に立ち会ってもらう等の取り組みが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	会議や勉強会において緊急時の対応について話し合う場を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は年に2回おこなっている。(火災水害、夜間想定等)地域との協力体制は具体的にはまだ模索の段階である。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等の対応が行われている。水害が想定される地域でもあり、水害を想定した取り組みも行われている。また、地域の方との関係づくりについては、現状、困難な状況が続いている。	ホーム建物の構造上の制約や身体状態の重い方も生活していることもあるため、感染症の状況もみながら、近隣の方との災害に関する協力関係が深まることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に利用者の思いを大切にしている。職員に対しては継続的に会議や個別で話をすることで意識付を行っている。また入社した職員にも話し合いの場を設けている。	基本理念である「あたたかく尊ぶ」ことを基本に考え、理念の唱和も行いながら、利用者への対応や言葉遣い等の意識向上につなげている。また、対応に困難な面がある利用者についても対応方法を検討し、利用者を尊重した対応につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	普段からコミュニケーションを密にとり様々な場面でできる限り職員主導でなく自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れは自然にできているが本人のペースで可能な限り希望が添えられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日の洋服、髪型等できる限り本人に伺い支援している。行事には洋服に気を遣い日常化粧もできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々の会話、茶話会等から食べたい物など聞き買い物から片付けまで利用者と職員と一緒にやっている。	食事については、外部業者のおかず類を活用しているが、ご飯と汁物はホームで調理が行われている。季節に合わせた食事の提供やおやつ作りには、利用者もできることに参加している。また、身体状態に合わせた食事形態の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	カロリーや栄養バランスに配慮をし個々の摂取量を記録し状態を把握できるよう支援している。量や形態当も個々に合わせ誤嚥、ムセの利用者がおりトロミ、ムース、きざみ等提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後洗口液を使用し口腔ケアを行っている。義歯の利用者は夜間洗浄液を使用している。必要に応じて舌のケア一部、全介助を行っている。丁寧に磨くよう声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の排泄パターンを記録したり話し合う場を設け自立支援につながるよう努めている。極力トイレで排泄できるよう時間を決めトイレ誘導を行っている。	ユニット毎に排泄に関する記録方法を検討し、1階フロアでは2種類の記録用紙を活用する等、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考えながら、職員2名での排泄支援を行う等、排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	生活の中で毎日体操、歩行訓練、散歩等を声かけを行っている。便秘薬を服用し排便のコントロールを行い牛乳や水分補給をこまめに摂取促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	基本月、木は入浴は休みだが利用者の状態によっては行う。車椅子の利用者はシャワー浴での対応をしている。また身体的に職員一人では危険が考えられる場合は二人体制で入浴介助を行う。	ホームでは、季節等にも合わせながら、夏場は週3~4回、冬場は週2~3回の午後の時間に入浴が行われており、利用者に合わせた声かけが行われている。利用者の身体状態に合わせた職員複数での支援や季節に合わせた入浴等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	プライベートな空間を提供しており状況に応じて休息不安なく眠れるよう支援している。体調によっては休息を重視している。意思疎通が困難な利用者には気持ちを読み取り状況によっては支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者の薬は毎月確認薬箱にセットしている。会議、勉強会等で個々の薬、副作用、用法等職員全員が理解できるように管理者中心に時間を設け共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者とのコミュニケーションに努め役割を決めその人らしく生活ができるよう日頃から常に職員で話し合っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナウイルス感染防止のため庭、散歩程度の外出しかできない。	感染症問題は続いていることもあり、利用者の外出が困難な状況が続いているが、その日の天候にも合わせて近隣を散歩する等、現状で可能な取り組みが行われている。また、受診については家族にお願いする等、家族との外出につながる機会もつづられている。	利用者の外出が困難な状況が続いていることもあるため、今後の状況もみながら利用者の外出行事の取り組みが再開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持を禁止しているわけではないが金銭管理ができ本人、家族の意見を聞いた上で柔軟に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個々に家族や知人に電話、手紙のやり取りが自由に行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの掲示物や飾り等皆で制作をしたり和やかな雰囲気を感じ居心地よく過ごせるように工夫支援している。また天気の良い日や季節によってはデッキに出て食事、お茶、音楽会等楽しい時間を過ごせるよう支援している。	ホーム内は限られた広さであるが、通路が一直線につくられていることもあり、外出が困難な状況の中で歩行訓練にもつながっている。リビングや通路の壁面には季節等に合わせた飾り付けや利用者の作品を掲示し、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアのソファ、庭に設置してあるベンチ、1階デッキ等で外の空気に触れながら状況や気分に合わせて思い思いの場所で過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時本人が使い慣れた馴染みの物をホームでも使って頂きたい旨を家族に伝えている。入居後も居心地の良い空間になるよう音、照明、色彩等工夫している。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、職員からの意見も採用しながら、居室内に植物を置く等、生活感のある雰囲気づくりも行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホワイトボードに今月の予定を記入している。利用者個々にできることを日々の生活から見極め見守り声かけで日常の中でその方に応じた生活のリハビリを積極的に取り入れている。		